

本を通じて語り合おう BOOK×TALK

The Night Library

ここは、まあるく輪^わになって始まるつどいの場。

お気に入りの「本」を持ち寄って、語り合いませんか。

ひとりひとりがナビゲーターになって本の世界を旅しましょう。

自分の“好き”を語る姿は誰もがキラキラと輝いています。

対 象： どなたでも参加できます。

と き： 毎月1回 満月の夜7時～9時

ばしょ： ○○○（ご協力頂ける市内のカフェ）

持ち物： 各月のテーマに合った自分の好きな本（ジャンル、言語自由）と
ドリンク代（お好きなドリンクをオーダーできます）です。

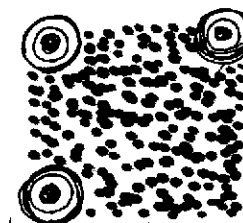
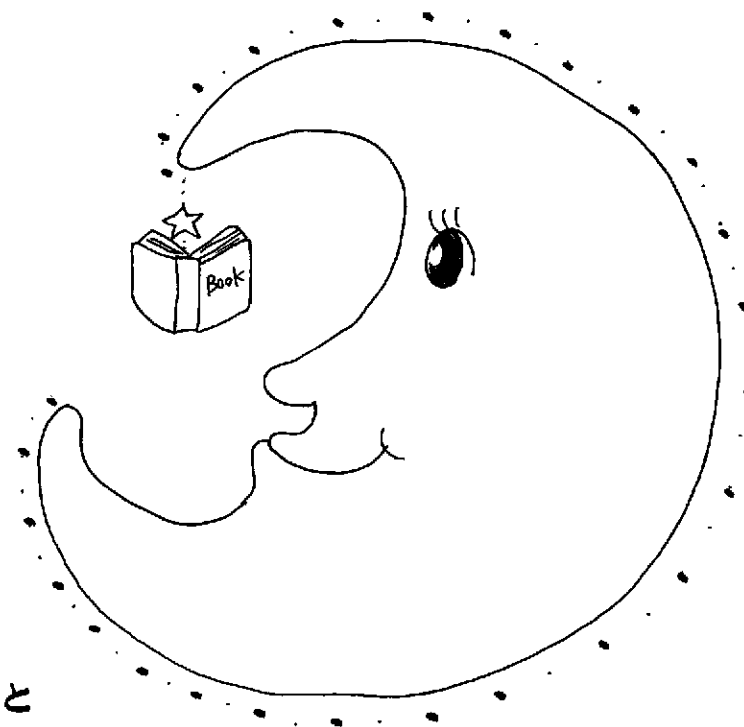
☆今月の本のテーマ：『○○○○』

ルール① テーマに合った自分の好きな本を1冊持ってくる。

（テーマ例：勇気をくれたこの1冊、旅に持って行くなら、など。）

ルール② 本の紹介、その本を選んだきっかけや思い出、エピソード、本の中の好きなことばなどを紹介する。

ルール③ どんなジャンルもOK！（小説、文学、絵本、児童書、詩集、画集、写真集、漫画など）



参加のお申し込みは、〇〇XXまで。
気軽にお問合せください。

Share your stories through books BOOK×TALK

The Night Library

This gathering begins in a circle.

Why not bring your favorite book and share your story?

We all become navigators, journeying through the world of books.

When people talk about what they love, everyone shines.

PARTICIPANTS: Open to everyone!

DATE: Once a month on the night of the full moon from 7:00 to 9:00 p.m.

PLACE: A local cafe (kindly hosting us)

BELONGINGS:

Your favorite book that matches this month's theme (any genre, any language),
and money for a drink (you can order whatever you like).

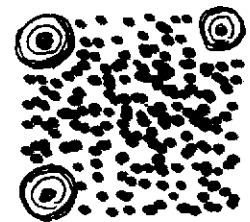
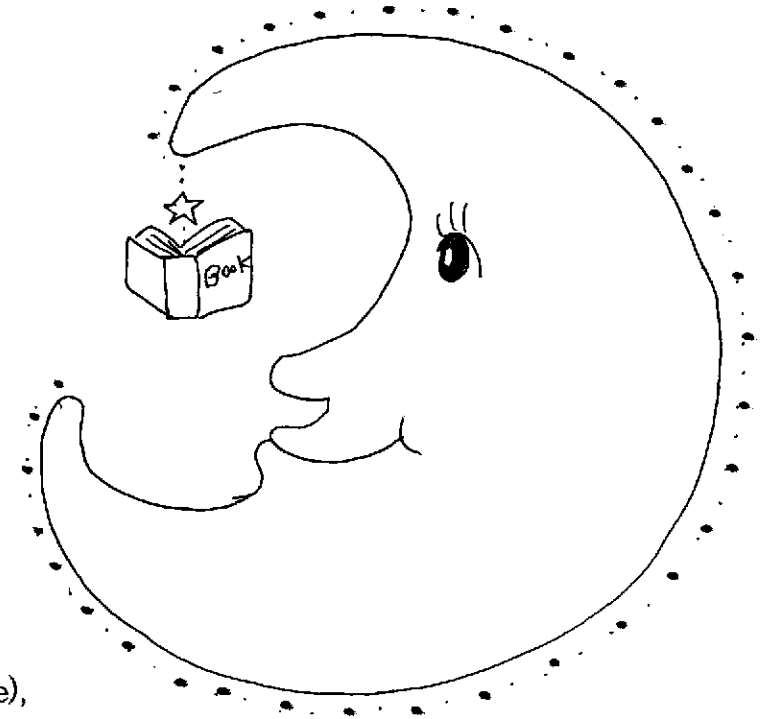
This month's book theme is "XXXX."

Rule 1: Bring one book you love that fits the theme.

(Example themes: A Book That Gave Me Courage, A Book I'd Take on a Trip, etc.)

Rule 2: We will be introducing books and sharing why you chose your book, memories or stories about it,
and your favorite words from it.

Rule 3: Any genre is OK! (Novels, literature, picture books, children's books, poetry collections, art books,
photo books, manga, etc.)



To apply, contact ○○××.
Please feel free to contact us.

①タイトル

The Night Library

②なぜその提案(できること・取り組みたいこと)を思いついたか

「行ってみたい！」そんな気持ちにさせる場に。

世代を越えて、時代を越えて、誰もが集まりたくなるような、ちょっと贅沢でいて、お洒落で、ワクワクと心が躍る月に一度の特別な時間と空間があったらいいな。「つながり」をテーマに、あえて場所を市内のカフェにすることで、この町に暮らす人たちや商店との連携をはかり、相互の魅力を広げ、発信し、支え合い、繋げていく役割を果たします。

―夜の外出は危ない？

―慣れないカフェは不安？

―誰かの手伝いが必要？

―子どもがいるから無理？

夜、しかもカフェで。行き慣れた人なら分かるけれど、それが日常ではない人もいます。中には、夜なら出られるかも、本があれば…という人も。でもきつと、どれも誰かの手助けが必要です。だからやってみましょう。これまでならタブーなことも、どうしたら参加できるか、誰に手助けしてもらえるか、この時代ならきつとできると思いませんか。

「つながり」を考えて→動いて→「つながり」を感じる。そして、そこからその思いや活動は循環していくことをこの講座を通じて感じたからです。

そしてここに来たら“茶の湯”のごとく、膝を交えたら誰もが平等です。だから、下の名前で呼び合います。生まれたときに両親が様々な願いをこめてつけてくれた名前。それは当たり前のようにいて平和な証。名前さえ呼ばれずに一生を終える人たちもこの地球上にはいるからです。個人情報がどうかの時代、それは身を守るため、安全のために必要なことです。挨拶さえままならないこの世の中。呼びかけてみませんか。お互いの名前を。

なぜ「本」なのか

また、ここでのポイントは、ただ話すのではなく、「本」というツールを挟んで語り合うということです。推しを紹介する感覚で。会話が苦手な方でも、話す、聞く意欲を掻き立てます。ゆくゆくはシネマ（映画）でも、ミュージック（音楽）もありだと思っています。なぜなら、どれも受け身のようにいて、そこには読者や聴衆、観客が相互に語りかける対話が存在しているからです。ふとその本を手にとったのはなぜでしょう。そして、そこで感じた思いには、その時に見た風景や人、匂い、音。そういった記憶までもがエピソードとして

刻まれていくように思います。そんな本を紹介するということは記憶をめぐることでもあるのです。それは脳の活性化にも繋がるとも言われています。

ネット販売やペーパーレス化によって書店も激減し、紙の書籍から電子書籍やオーディオブックに代わりつつある中で、本棚から手にとって読む紙の本も、町の本屋さんも、存続してほしいと願います。いつの時代も本を読むことで、人は言葉を育み、言葉を交わし、心を通わせられる。そんな風に私は思います。本にまつわる思い出やエピソードも語り合う中で、環境も、時代も、業種も、性別も、国籍も…異なるお互いにきっと新しい発見も生まれると思っています。

ここで紹介された本のゆくえ

案その１）紹介された本のタイトルと紹介文を添えて社協の新聞に掲載など、駅前や地域の掲示板、新設された図書館などで（仮題）『市民が勧める図書』として紹介。

バトン形式で、本の紹介者を掲載していく。

案その２）「絵手紙」発祥の地、粕江ならではのワークショップ。

「絵しおり」や「絵ブックカバー」のワークショップを開催。

案その３）著者を招いた講演会の開催。

※他の活動とコラボ。

③その提案を実践することで地域がどのようなになればよいと思うか

「本」というツールを通じて、ひとり世帯から高齢者、障がい者、子育て世代、外国人、子ども（夜のため親同伴であれば可）から大人まで粕江に住む全ての人を対象に語り合うことで、町の人と人の繋がりを深め、心の充足をはかります。また、読書の促進を目的にしています。